

Face to Face

2009.NOVEMBER

あなたとFUJIを見つめるLIVE MAGAZINE

volume 36

[フェイス トウ フェイス]
笑顔でつなぐコミュニケーション

富士子ども劇場

岡 純子

Junko Oka

新井 あかね

Akane Arai

石原 聡美

Satomi Ishihara

お気に入りショップ

オープンガーデン 花びぜん

京昌園 別館

ボンヌ・ジュルネ

今年も もうすぐ終わり

忘年会特集

富士ロゼシアター・ふじさんめっせ

ロゼシアター 公演情報

第3回 富士市環境フェア

Book information

素敵な本がたくさんあります

Smile3

玉田さんのご家族を紹介しま

イベントインフォメーション

MAUハンドベルリングーズ

Happy present

池上彰 小学生から「新聞」

を読む子は大きく伸びる!

子どもの頃、親に手を繋いでもらい色々な所へ行った。遊園地、動物園、海、山など、本当に楽しかった。その時の記憶は今でも脳裏に焼きついている。親にすれば何気ないことでも子どもは意外と覚えているものだ。楽しかったこと、叱られたこと、嬉しかったこと、感動したこと、大人は気にも留めないことでも子どもにとっては特別な出来事となり、その後の自分の人生に大きな意味を持つこともある。そんな経験が誰にでもあるのではないだろうか。

【富士子ども劇場】ってどんな団体ですか？

皆さんも漠然とこの名前を聞いたことがあるだろう。しかし活動の実態は意外と知られていない。『感性豊かな子どもを育てる』をキャッチフレーズに子育て世代の支援を目的に富士市で設立され、今年でちょうど35周年を迎える。現在会員数は約850人。主な活動はプロの演劇集団を富士に呼び、親子で鑑賞する機会を提供することにあるが、その他にも地域単位で音楽会やアウトドア、料理教室、お茶会など、会員でなくても自由に参加できる活動も実施しており、大いに子育て世代の交流の場となっている。

子ども劇場は40数年前に九州の福岡市で始まった。人形劇サークルに所属していた教育学部の大学生と子ども会のお母さん達を中心となり子どもに一流の演劇を見せてやりたいと思ったが、当時はプロの劇団は福岡にはなく東京から呼ぶしかなかった。当然費用がかさむので、有志を集め月々会費を積立て皆で劇を見たことが始まりであったという。プロによる生の演劇は人々の心を打ち大きな感動を与えた。また子ども劇場の会費は非常に安く設定され、それまで演劇を見たことが

なかった人や、見たくても見られない人達の間で評判となり、子ども劇場運動として全国に広がっていった。

【富士子ども劇場】はそんな経緯で富士市に誕生して今年でちょうど35年を迎える。歴代の子育て世代が中心となつて運営されてきた団体なので、順次中心になる世代が交代してゆく宿命にある。そんな中で35年も事業を継続できたのは余程、運営ノウハウがしっかりしているとか、組織化されているとか、事務局を運営する人々の結束が固いのだろうと思いを巡らすことになる。

今回の取材でその中核を担う女性三勇士(表紙を飾る)にお会いしてお話を伺ううちに、その思いは強くなった。誕生の経緯はともかく、現在の【富士子ども劇場】は地域に根ざした会員組織として、特色のある独自事業も数多く企画運営している。それではその三勇士のプロフィールと【富士子ども劇場】に寄せる熱い思いを紹介しよう。

岡 純子さん

【富士子ども劇場】事務局長

岡さんは事務局長であると同時に『静岡県子ども劇場おやこ劇場連絡会』の事務局長も務めている。26年程前から【富士子ども劇場】活動に携わっているが、お子さんがとうに成人した現在でも右記の要職に身を置き、本団体のバックボーンであり生き字引的な存在と思われる。

「子ども劇場は現在では全国に約700の地域団体があります。夫々は独立した団体ですが、全体は連絡協議会で結ばれていて、年に何度かは運営に関する会議などを開きます。利用できるプロの演劇がジャンル別にまとめられ1冊の本になつて提供されています。自分の例を企画するのに利用します。連絡会が他の団体と日程的な調整

を図つたり運営ノウハウの情報交換を行い、お互いがより良い活動が出来る様に努力します。全体は大きな組織ですが、地域を運営しているのは素人のお母さん達がほとんどです。会員である親子は子どもが大きくなれば辞める人も多いのですが、私の様にこの活動をライフワークとして長くやっている者もいます。本当に様々な係わり方があります。」

「私も入会当時は専業主婦でした。自宅の先輩お母さんに誘われたのがきっかけで参加するようになったのですが、初めは子どもと一緒に劇を見るだけでも、とても新鮮で有意義な気がしたものです。そのうちに、色々な方と出会う事で自分の社会性が刺激され運営面にも興味を持ち、気が付いたら26年も会の運営に携わり今日に至っています。」

新井あかねさん

【富士子ども劇場】運営委員長

新井さんはピアノの先生をしながら本団体の運営に携わっている。ご自身も小学5年生の双子のお子さんを持ち、入会して今年で5年目だが運営委員長という重責を担っている。まずはご自身の入会動機からお聞きしよう。

「私は知人に紹介され【富士子ども劇場】に興味を持ちました。『木村ゆういち』という作家の『あらしのよるに』という作品がその時、公演予定になっていました。事前に作家本人の講演会もあり、とても面白く拝聴致しまして、是非とも演劇も見たいと思い【富士子ども劇場】に入会しました。ヤンチャな子ども達がおとなしく劇を見る事が出来るのか心配だったので、2人とも初めから劇に入り込み真剣に見ていました。その劇は嵐の夜に暗闇の中で知り合ったオオカミとヤギが友達になるのですが、最後にオオ

—— 富士子ども劇場 ——

年4回、プロが演じる生の舞台にふれることで、子どもの心を育てることを目的とした様々な活動をしている。



事務局内、作業中の様子



第35期 富士子ども劇場

(右) 岡 純子 ~おかじゅんこ~
事務局長 兼
静岡県子ども劇場おやこ劇場連絡会 事務局長

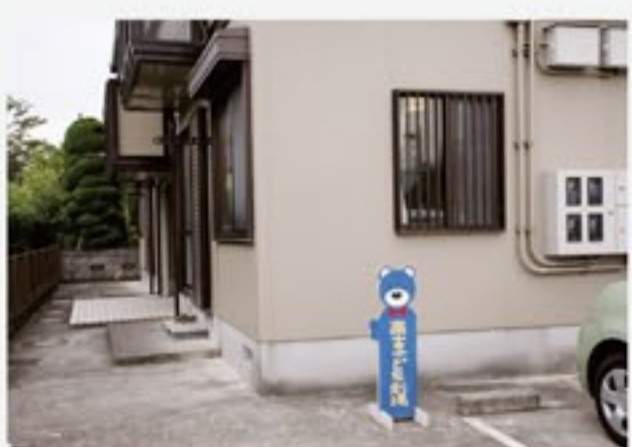
(中) 新井 あかね ~あらい あかね~
運営委員長

(左) 石原 聡美 ~いしはら さとみ~
副運営委員長 兼 例会宣伝部長

富士子ども劇場 事務局

富士市米之宮町3番地
パルクドミーユ101号

TEL (0545)62-4622



カミはヤギを食べてしまうのか？二人は心配し、私にヤギは死んじゃうの？と聞いてきました。子どもの心に触れ、何て凄いいことだろう！と私自身も感動しました。次年度からは運営委員になりました。」

プロの演劇は大きな感動を呼ぶ。親子で感動を共有することは、普段の生活ではなかなかない。子ども劇場の運営に参加するようになった新井さんは、その魅力に引かれていったが、それだけでなく子どもの内面にも変化が現れた。

「子ども劇場に来ると他のお母さんが子どもに声を掛けてくれます。どこに行っても声を掛けてくれます。学校は良い場所ではあるのですが、子供にとつて学校以外に自分を認めてくれる場所が一つ増えたことが私には嬉しかったのです。それに子ども劇場のお母さん達は皆な温かい人達ばかりで、色々な技術やノウハウを持っています。私はただ教えてもらうことばかりなのですが、本場に魅力を感じており、子ども劇場が好きで好きでたまりません。(笑)また子ども達も様々な活動に参加し、そこで必ず一つの役割をします。例えばお店で『いらっしゃいませ』と言うだけでも子ども達は楽しくてしようがないみたいです。たとえどんな小さなことでも、子どもは褒めて認めてあげると喜びます。そんな要素が子ども劇場には多くあります。子ども劇場は子どもも親も成長できる良い場所だと私は思います。その他にも子ども劇場の魅力は多くあります。少しでも興味がある方はぜひ一度、参加して知ってもらえたら嬉しいですよ。」

石原聡美さん…副運営委員長
兼 例会宣伝部長

石原さんは子ども劇場に携わって10

年になるベテランだ。現在は富士市の社会福祉協議会のパート職員の傍ら団体の活動に深く関わっている。

「社会福祉協議会では、相談業務を担当しています。私は若い頃から青年団に入っていたこともあり、岡さんを知っていました。子ども劇場は自分の子どもにとつても良いものだと思いますので、もう絶対に(子どもができた)入会しようかと決めていました。(笑)」

石原さんのお子さんは現在中学1年生だ。現在も子ども劇場に入っている親子で一緒に楽しんでいるという。

「男の子で野球をしているので普段はわりとハードな生活をしています。でも年に4回の劇を楽しむ為に本を読んだり、また作家の講演会に参加したりと子ども劇場では普段とは違うソフトな部分を感じて癒されているようです。また校区以外で友達ができ、学校とは関係なく付き合うことが出来るのが楽しいようです。『最近、野球どう？』と大人に声を掛けられると以前は照れていましたが、最近ではもう普通に受け答えています(笑)。ですから私と一緒に買い物やら、外出する事に何の抵抗も感じていないようです。」

子育ての悩みは何処にでもあるもの

近頃は親が子を虐待したとか、子どもの暴力で手に負えないといったケースを頻繁に耳にする。こういう世相を岡さんはどう考えているのだろうか。

「虐待とかニグレクト(子育て放棄)程でないにしても、身近なところでは子どもの不登校で悩んでいる親が多いと聞きます。大なり小なり、どの子も行きたくない時期があったりします。問題が起きると自分の子だけがそうなのかと考えがちですが、みんなが家庭内の

問題や学校の問題など様々な子育ての悩みを抱えています。ここには色々な年代のお母さんがいて、利害関係がありません。ですから地域では話しくいことでもフランクに話せます。結構皆さんは経験豊かで、解決の知恵やノウハウを持っており、悩みを話すと助けてくれます。『それは特別なことじゃない、どの子にもあることよ』私はこうしたわ』そういうこともあったわよ』

「うちの子は普通なんだ」と思えば元気が出ます。それにより自分で解決の糸口を見つけクリアしていくケースがほとんどです。まずはお母さんが元気になって家庭を見守ることが大切です。」

また石原さんも言う。「虐待は、お母さん自身に余裕がないから起きるのだと思うんです。ここに来れば、自分が荷物を降ろして元気になるれます。それにより虐待や暴力は減らせると思います。」

最近ではお父さんの入会も増えているそう。また、おじいちゃん、おばあちゃんとお孫さんで入会することもある。世代を超え、色々な人が子ども劇場に参加するのは良い事だ。子ども劇場は核家族化した私達が忘れかけている何かを取り戻すことが出来る場所なのかも知れない。



富士子ども劇場
おやこでHAPPY♥35th

35周年記念フェスティバル
11月15日(日) ロゼシアター

朝から晩までロゼシアターで楽しんじゃおう!!

<p>こぎつねコンと ごだぬきポン 劇団がかり屋 影絵劇 人形劇 らんたん</p> <p>第1練習室 10:30~11:30</p>	<p>王さまの耳はロバの耳 だるま堂 人形劇</p> <p>リハーサル室 12:30~13:30</p>
<p>だるま森の がっきやさん だるま堂 人形劇</p> <p>第1練習室 16:30~17:30</p>	<p>のりお 法男ひとり原 電人形劇</p> <p>リハーサル室 18:00~19:50</p>

※「長靴をはいたねこ」は券売りでなく、入会して観ていたください。(前入会特典あり)

1公演につき 一般券 1,300円(3歳以上) 会員券 1,000円

イベントコーナー (1階フロア) ダンボールハウス・ミニステージ・展示など
(無料で参加していただけます)

チケットのお問い合わせ・お申し込みは
富士子ども劇場 ☎(0545)62-4622
ホームページ <http://www.10.plala.or.jp/f-kodomo/>

後援 富士市教育委員会・富士市教育委員会・(財)富士文化振興財団

11月15日(日)に開催される富士子ども劇場主催の影絵劇「長靴をはいたねこ」の案内ポスター。このポスターもスタッフによって制作されている。